

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年6月3日(2010.6.3)

【公表番号】特表2009-532363(P2009-532363A)

【公表日】平成21年9月10日(2009.9.10)

【年通号数】公開・登録公報2009-036

【出願番号】特願2009-503060(P2009-503060)

【国際特許分類】

C 0 7 D 493/04 (2006.01)

C 0 9 K 19/38 (2006.01)

C 0 9 K 19/54 (2006.01)

C 0 8 F 20/20 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 493/04 1 0 1 D

C 0 7 D 493/04 C S P

C 0 9 K 19/38

C 0 9 K 19/54 B

C 0 8 F 20/20

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月26日(2010.3.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

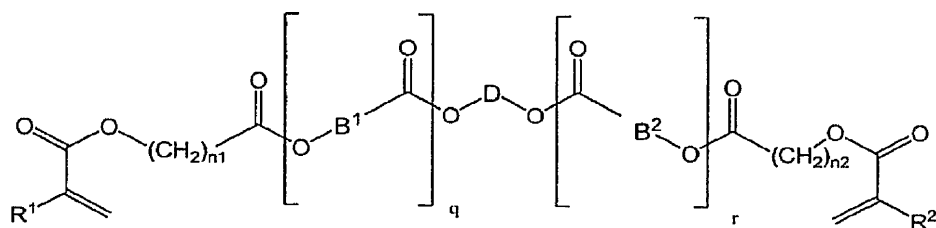
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I) :

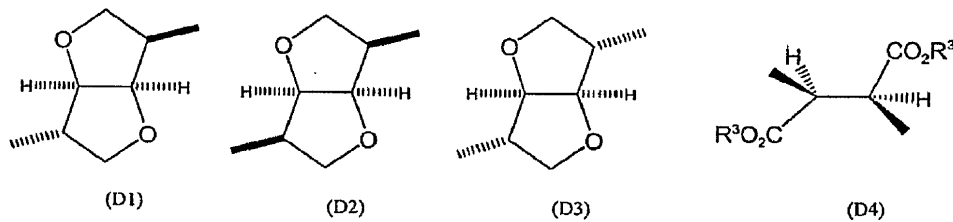
【化 1】



(I)

〔式中、 R^1 および R^2 はそれぞれ、群：H、F、Cl および CH_3 から独立して選択され、 n_1 および n_2 はそれぞれ独立して整数 3 ~ 20 であり、 q および r はそれぞれ独立して整数 0、1 または 2 であり、ただし $q + r$ は 1 であり、D は群：

【化 2】



(式中、 R^3 は C 1 ~ C 6 の直鎖または分岐鎖アルキル基である)

から選択される二価のキラル基であり、各 B^1 および B^2 は群： R^4 - 置換 - 1, 4 - フェニル (ここで、 R^4 は H、 $-CH_3$ または $-OCH_3$ である)、2, 6 - ナフチル、および 4, 4' - ビフェニルから独立して選択される二価の基であり、ただし、 $q + r = 3$ であるとき、 B^1 および B^2 の少なくとも 1 つが R^4 - 置換 - 1, 4 - フェニルであり、 $q + r = 4$ であるとき、 B^1 および B^2 の少なくとも 2 つが R^4 - 置換 - 1, 4 - フェニルである]

の化合物。

【請求項 2】

D が群：(D 1)、(D 2) および (D 3) から選択される請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

q および r が 1 に等しく、 B^1 および B^2 が R^4 - 置換 - 1, 4 - フェニルである請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 つの化合物を含む重合性液晶組成物。

【請求項 5】

120 未満でねじれネマチック相を有する請求項 4 に記載の重合性液晶組成物。

【請求項 6】

請求項 4 または 5 に記載の組成物の重合から誘導されるポリマー網状構造。

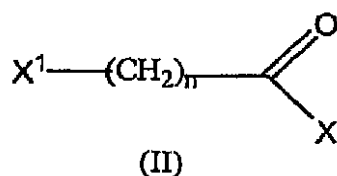
【請求項 7】

光学素子多層ラミネートまたは顔料として製造される請求項 6 に記載のポリマー網状構造。

【請求項 8】

- a) キラル有機ジオールを提供する工程、
- b) 上記キラル有機ジオールを式 (II)：

【化 3】



(式中、X は Cl、Br または OH であり、 X^1 は群：Cl、Br、I、 $-OMs$ 、 $-OTs$ および $-OTf$ から選択され、 n は 3 ~ 20 の整数である)

の 1 つまたはそれ以上の官能化アルキル酸または酸ハロゲン化物と第 1 反応溶媒中、第 1 反応温度で反応させて 1 つまたはそれ以上の多官能化エステルおよび第 1 スペント反応混合物を生成する工程、および

- c) 上記 1 つまたはそれ以上の多官能化エステルを (メタ) アクリル酸塩と、相間移動

触媒、および第 2 反応溶媒の存在下に第 2 反応温度で反応させて、1 つまたはそれ以上のポリ(メタ)アクリレートエステルおよび第 2 スペント反応混合物を生成する工程を含む方法。

【請求項 9】

工程 (b) が塩基の添加をさらに含み、そして工程 (c) が 1 つまたはそれ以上のラジカル禁止剤の添加をさらに含む請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

第 2 反応溶媒が第 1 スペント反応混合物を含む請求項 8 に記載の方法。